

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 石峯 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

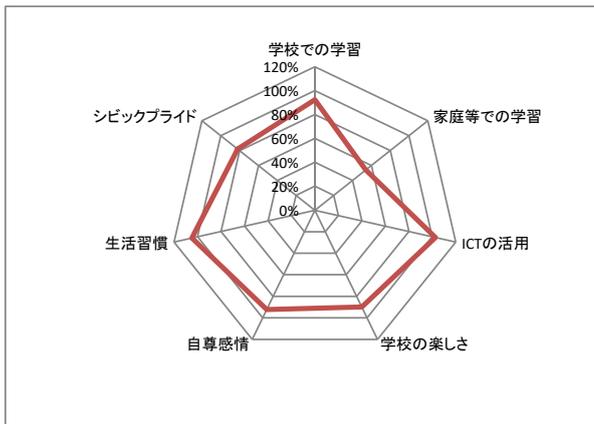
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的にみると、「書くこと」は全国平均に比べるとやや下回るが、他は、ほぼ平均であった。文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけて、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」問題	
	努力が必要な問題	「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」の観点について、正答率が全国平均を上回っている問題が多数あった。選択式や短答式の問題では無回答率がかなり低く、答えを導きだそうとする生徒の姿勢がみられるが、記述式の問題では無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	データやグラフから内容を読み取り考察する問題	
	努力が必要な問題	数学的な表現を用いた説明や証明に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活習慣」と「ICTの活用」の領域については、全国比で100%を超えている。生徒は安定した生活リズムで過ごすことができていることがわかる。また、ICTについては、より生徒にとって有用な活用方法を職員研修なども行うなかで考えていく。 ・「自尊感情」の領域における、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いに対して96%の生徒が肯定的に回答しており、全国の結果に比べて高い数値となっている。 ・「家庭等での学習」の領域が、他の領域に比べて低い傾向にある。石峯タイムや放課後学習教室、ひまわり教室の活用と、ステップアップノートの活用を通して、主体的に学習に取り組む態度を養いたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

本校の家庭学習用ノート（ステップアップノート）の取組や、学習サイクル（朝自習と石峯タイムの連携）を活用し、生徒の基礎的・基本的な内容の定着を目指す。また、放課後学習室を定期的開設して生徒が自主的に学ぶ場を設定する。さらに、職員研修を通して、授業における個別最適な学びを展開できるように努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

国語・数学・英語の学習コンクールを開催すると、多くの生徒が一生懸命に取り組み、点数を競い合う姿が見られている。この取組を継続するとともに、ステップアップノートを活用するよう啓発しながら、「やればできる」という意識を高め、家庭学習への意欲向上を図る。